

「世代交代地域の分析について」 ～藤沢市湘南大庭地区を例に～

2018年1月25日

神奈川県地域人口研究会

報告 藤沢市 杉渕 武

報告の流れ

- 1 藤沢市の紹介
 - ・概要
 - ・将来人口、将来の高齢者人口
 - ・13地区の区域図
- 2 湘南大庭地区の年代構成の推移
 - ・2000年以降の推移、一人暮らし高齢者
- 3 湘南ライフタウンの街づくりの過程
- 4 住宅ストックの活用

1. 藤沢市の紹介 概要

(1) プロフィール

首都圏から50km圏
 東京駅から約50分
 新宿駅から約60分

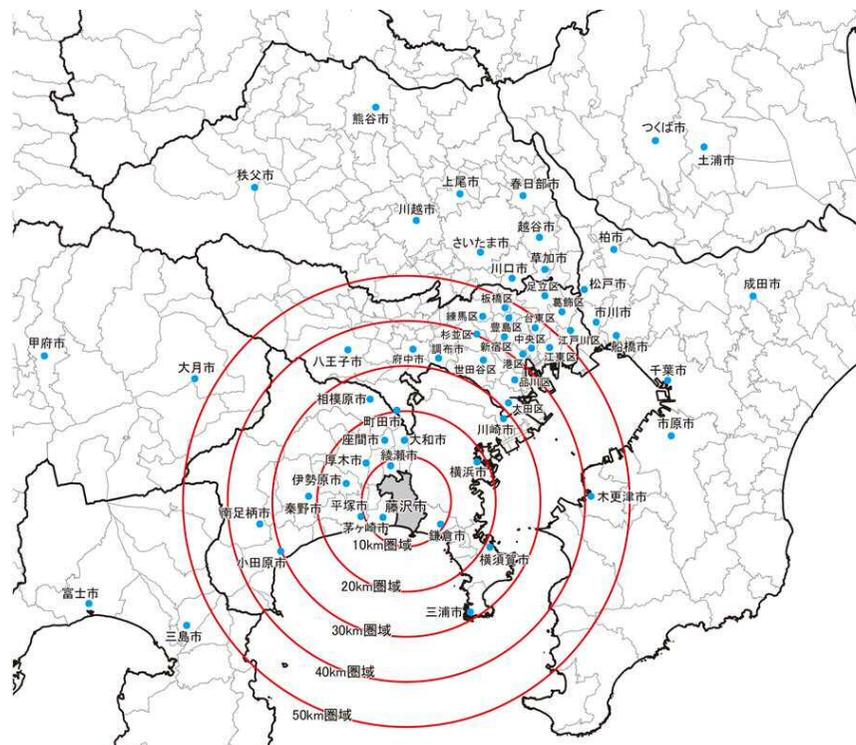
面積	69.57km ²
東西距離	6.55km
南北距離	12.00km
周囲	39.72km
海岸線延長	5.25km
江の島周囲	約 5km

人口 約428,788人
 (2017年9月)

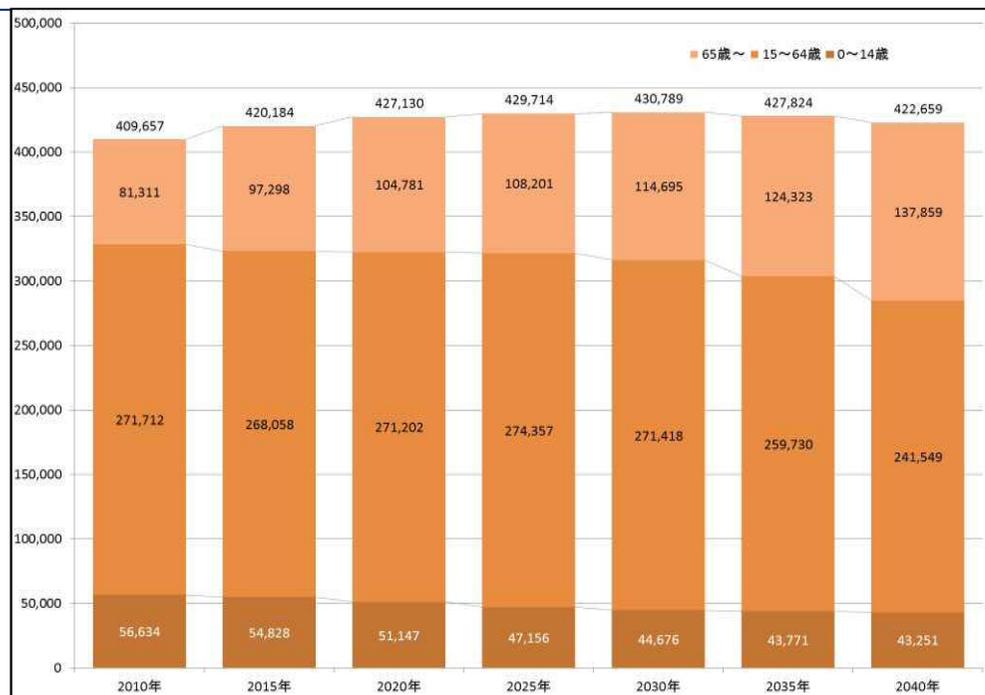
昼夜間人口比率 0.93 (2010年国勢調査)

流出人口 117,418人

流入人口 81,365人

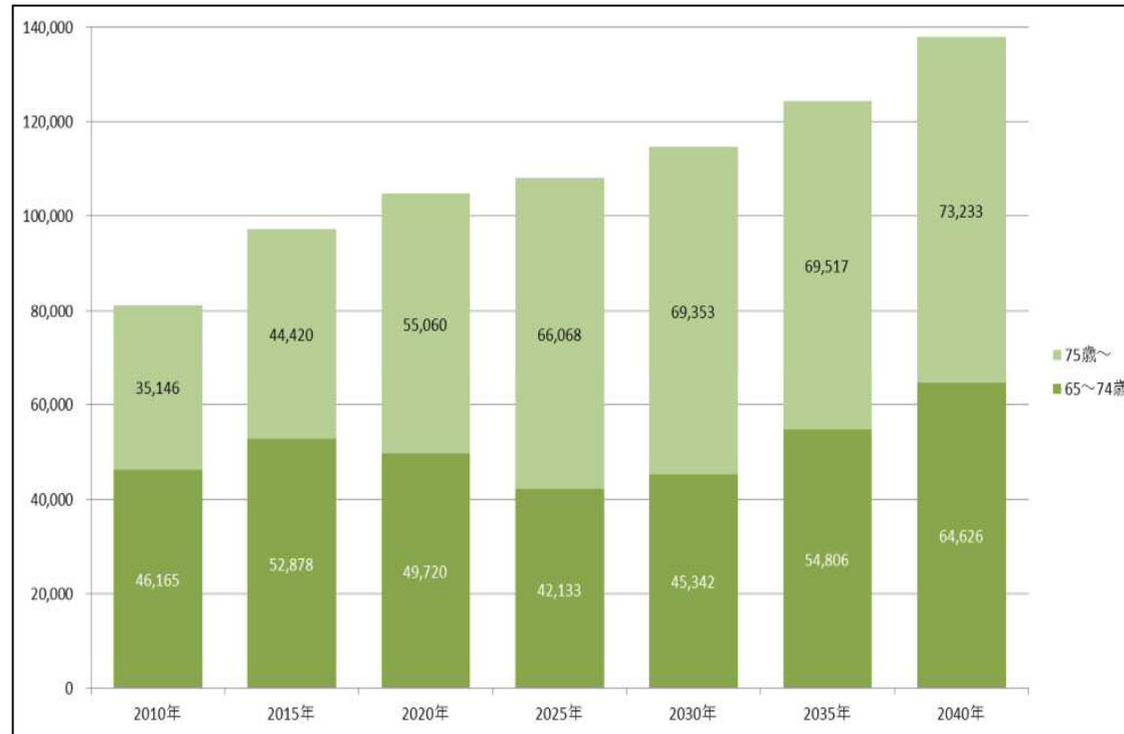


1-2. 藤沢市の将来人口推計（平成25年調査）



- ・総人口は2030年がピークで約43万人。高齢化率は2025年に25.1%で、108,201人。高齢者総数も高齢化率も増加。現在見直し中。生産年齢人口数は2025年をピークに減少。
- ・実人口は予測を上回る。 2015年:423,894人 2017年:428,788人

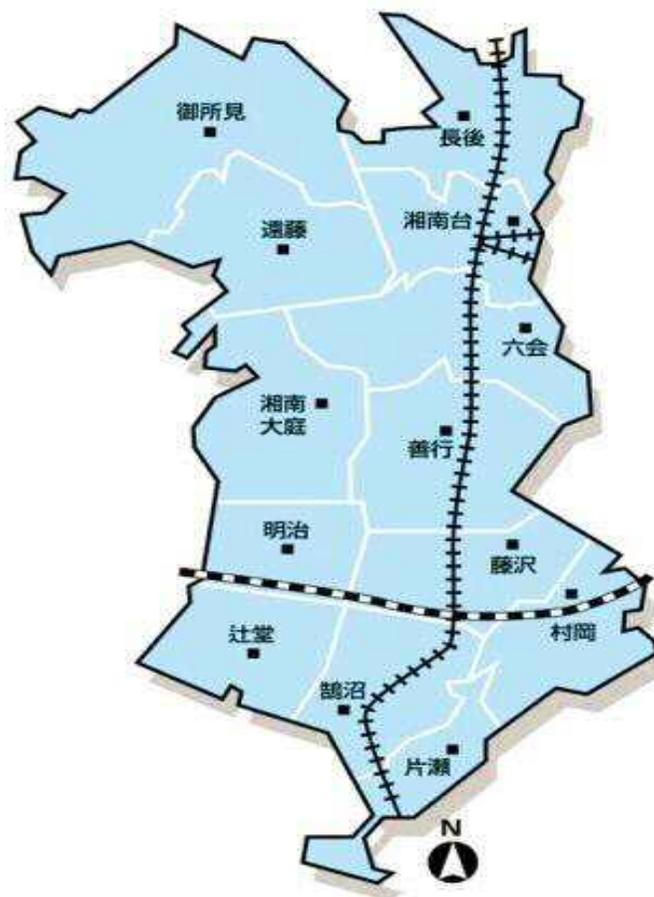
1-3. 高齢者人口の推移 (平成25年人口推計)



2015年から2025年にかけて
 65歳以上は約1.1倍
 75歳以上は約1.5倍

1-4 地区の区域図

13地区それぞれの
地区の特性を活かし
ながら、まちづくりを
進めている。



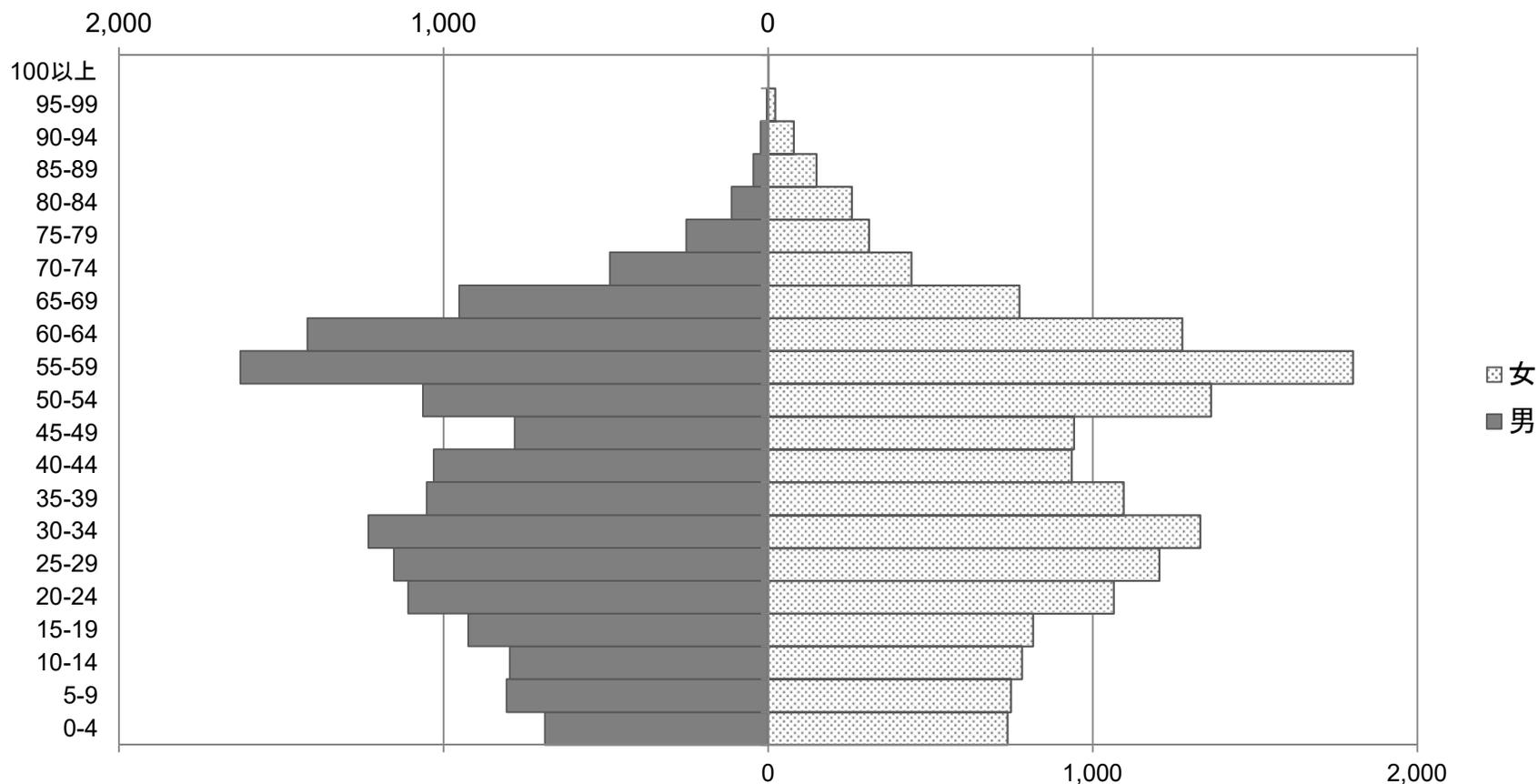
2-1. 湘南大庭地区の状況 人口推計



2015年からの15年間で、75歳以上高齢者数は2倍強。
 65歳～74歳の高齢者数は約4割減少。
 高齢化率28.1%(2015年国調速報値)。 31916人(h29.9)

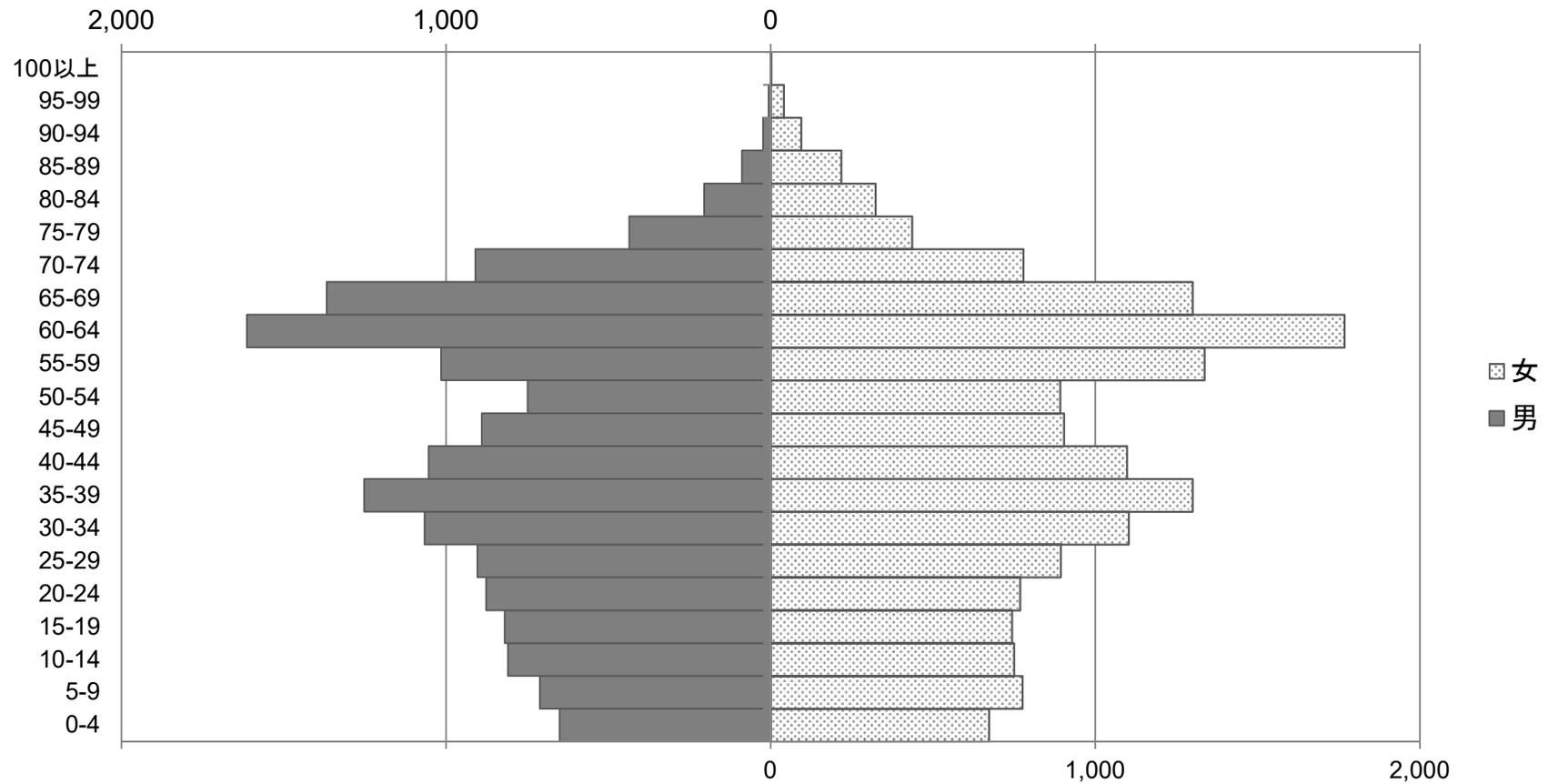
2-1. 湘南大庭地区 人口推移 2005年度

2005年度 湘南大庭地区年齢別人口構成



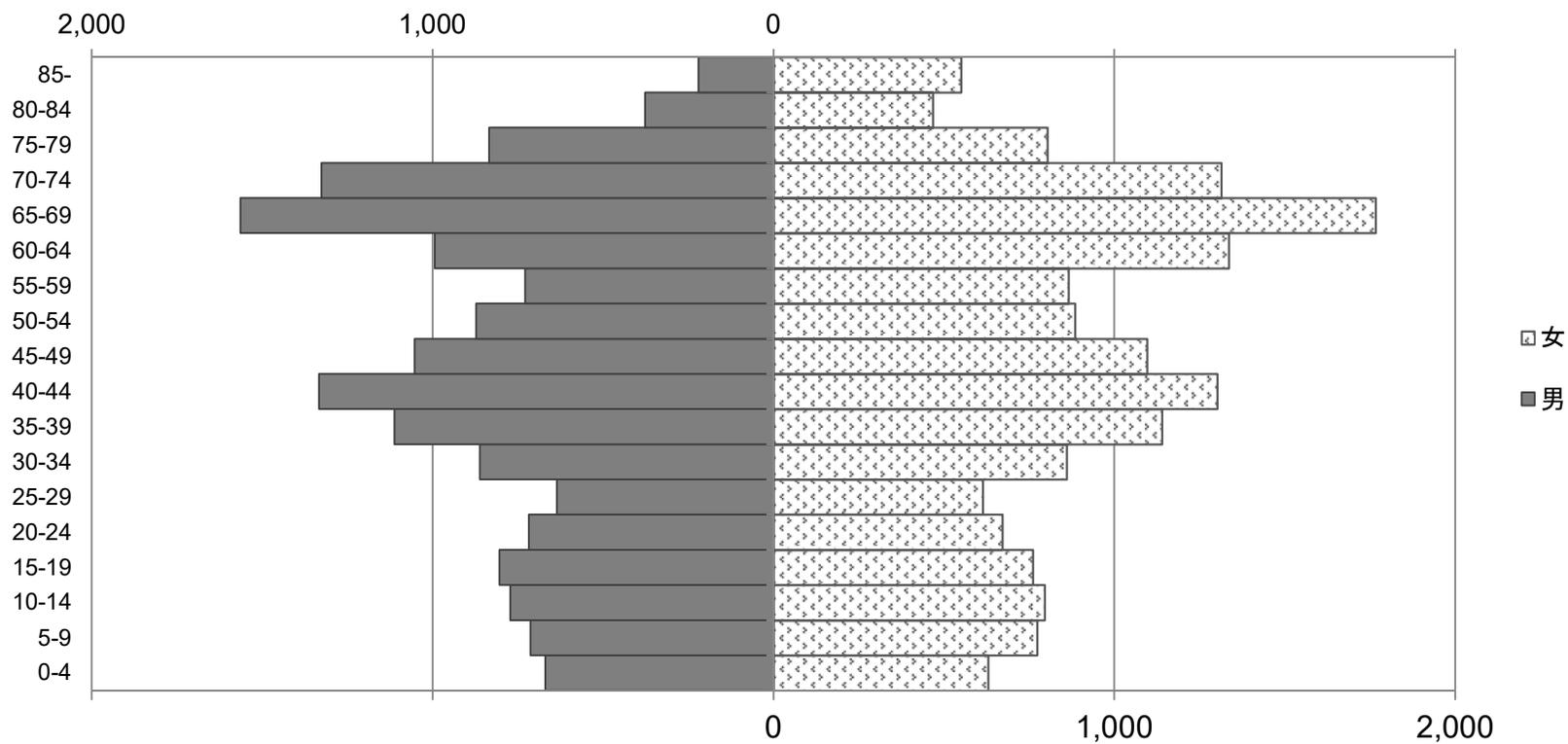
2-1 湘南大庭地区 人口推移 2010年度

2010年度 湘南大庭地区年齢別人口構成

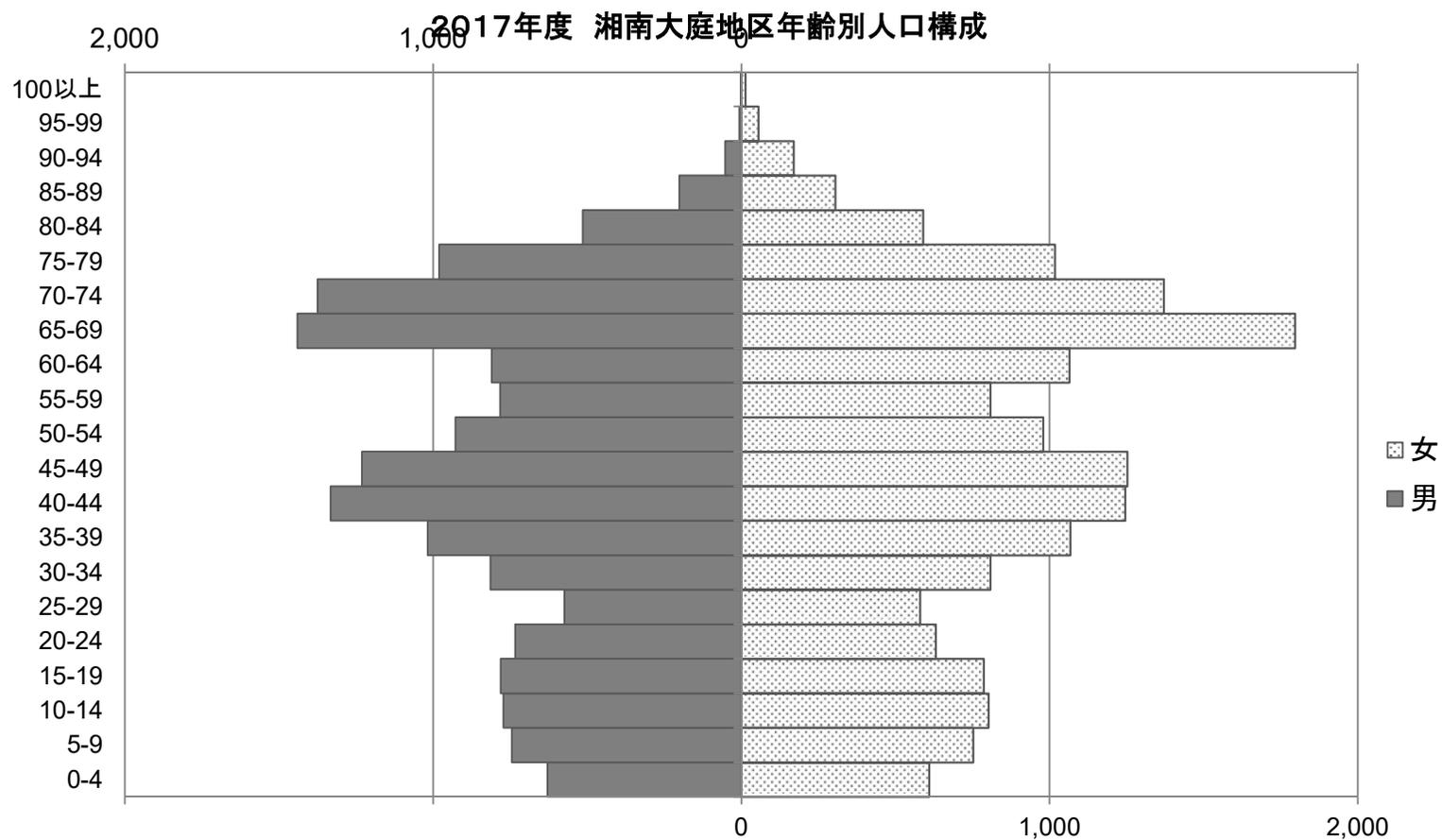


2-1 湘南大庭地区 人口推移 2015年度

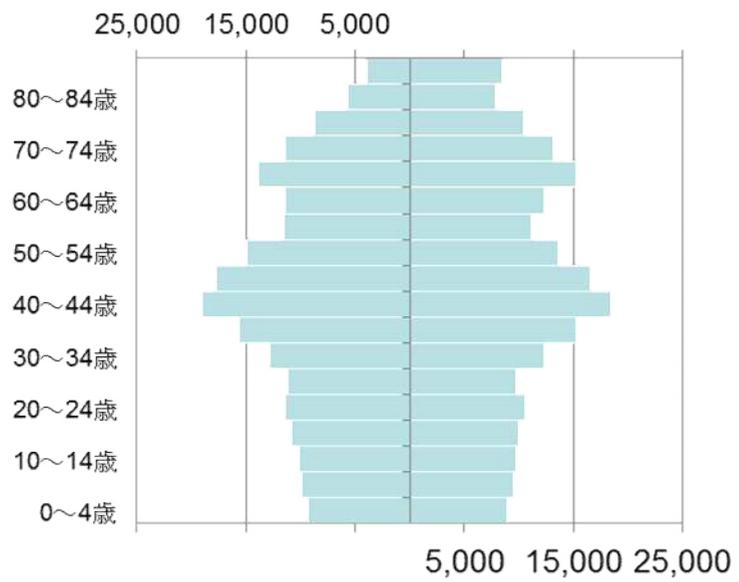
2015年度 湘南大庭地区年齢別人口構成



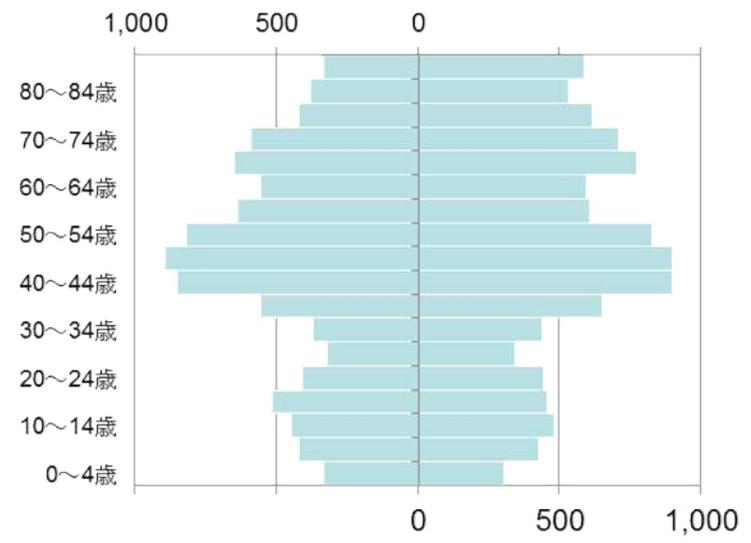
2-1 湘南大庭地区 人口推移 2017年



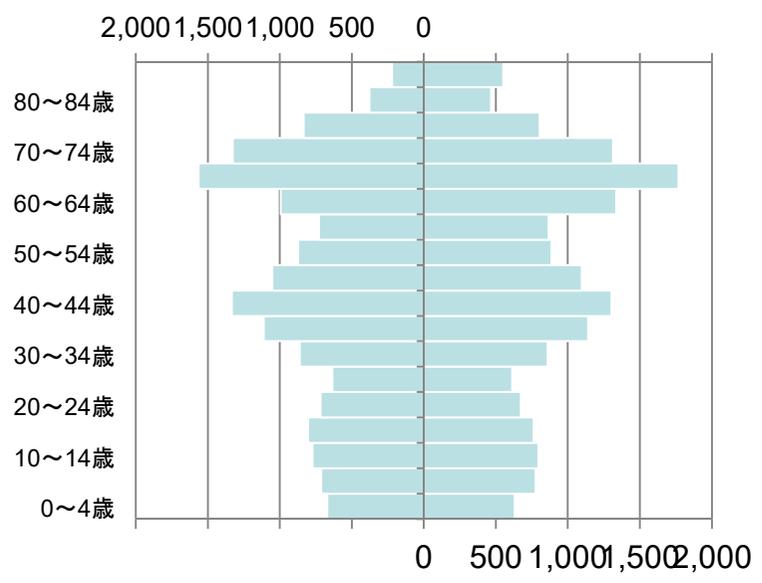
市全体



片瀬地区



湘南大庭地区



2-1 人口推移

- 推移の特徴 2005年度からの推移をみれば、ピーク時の年代が、5歳階級ごとに、高齢化に推移している。65～69、70～74の年代が10年後には75以上になり、亡くなる人も多くなる。80以上の人口は大きく減少していることがグラフからわかる。**市の構成とは異なる。**

2-1 一人暮らし高齢者

湘南大庭地区の一人暮らし高齢者

2005年	412世帯	(地区全世帯の3.66%)	全市:6.2%
2010年	756世帯	(地区全世帯の6.29%)	全市:8.0%
2015年	1145世帯	(地区全世帯の10.95%)	

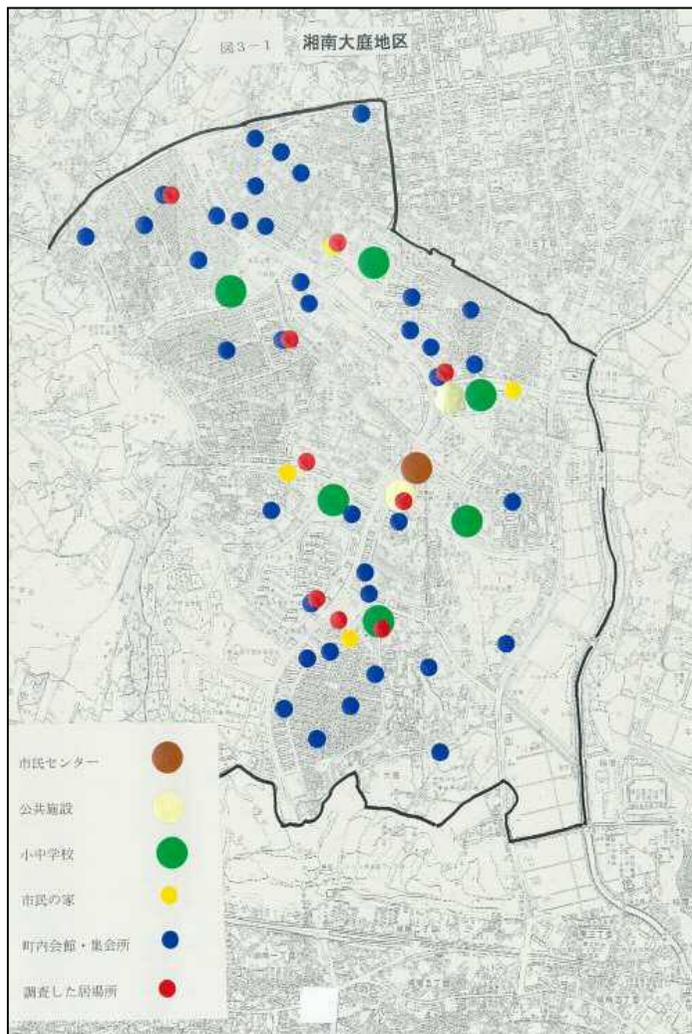
○一人暮らし高齢者世帯が急に増加している。

一人暮らしの方がなくなれば、住まいは空き家になる可能性が高い。大きな影響を与える。全市平均を超える可能性がある。

2-1 核家族世帯

・平成22年	湘南大庭	全世帯 12,011	
		核家族世帯 8,976	74.7%
	全市	全世帯 171,818	
		核家族世帯 105,314	61.3%
・平成17年	湘南大庭	全世帯 11,254	
		核家族世帯 8,656	76.9%
	全市	全世帯 161,122	
		核家族世帯 99,889	62.0%

3-1 湘南大庭地区の街づくり 施設配置



- 行政施設
 - 市民センター・公民館
 - 市民の家(4ヶ所)
 - 市民図書館
 - 子ども家(1カ所)
- 教育施設
 - 小中学校(6ヶ所)
 - 県立高校
 - 看護専門学校
- 医療機関等
 - 保健医療センター
 - 北保健センター
- 公園
 - 総合公園(1カ所)
 - 近隣公園(3ヶ所)
 - 街区公園(14ヶ所)
 - 大庭台墓園

3-2. 湘南大庭地区の状況 市民活動

(1) 自治会・町内会

- ・総数 48団体。 加入率 約78%。
- ・ほとんどの自治会町内会は集会所(町内会館など)を持っている。
- ・運営上の課題 男性役員が少ない。役員のみり手がいない。
役員が1年交代のため継続的な取組が進まない。

(2) 市民センターを核とした活動

- ・自治会連合会
- ・生活環境協議会 ・防犯協会
- ・交通安全対策協議会 ・防災協議会
- ・青少年育成協力会 ・福祉協議会
- ・老人クラブ連合会 ・民生委員等協議会



自治会集会所

3-3. 湘南大庭地区の状況 市民活動

(3) 小学校を核とした活動

- ・地区社会体育振興協議会
- ・放課後子ども教室

(4) 地域の諸活動

- ・クラブ生活協同組合活動
- ・自然環境保全活動
- ・NPO活動
- ・ボランティア活動センター



放課後子ども教室

3-4 地域コミュニティをめぐる社会状況と課題

- 超高齢社会の進展
 - ⇒ 後期高齢者、一人暮らし高齢者の増加
- 少子社会の到来
 - ⇒ 出生率の低下、15歳以下人口の減少
- 働き手の割合の減少
 - ⇒ 老年人口指数の増加
- 産業構造の変化
 - ⇒ 生活支援サービスの増加、暮らし方の変化
- 格差の拡大
 - ⇒ 生活保護費・就学援助費、ひとり親家庭の増加
- 市民活動の二極化
 - ⇒ 地縁型コミュニティとテーマ型コミュニティ
- 活動の場の多様化と居場所の確保
 - ⇒ 多世代が交流できる場、公共施設・民間施設の活用
- 空き家・空き室の増加
- ニュータウン(団地)の再生
 - ⇒ 多世代住居・近居
- 移動環境の整備
 - ⇒ バス交通の充実、乗り合いタクシー
- 住まい方の変化
 - ⇒ 住宅政策の再構築、住み慣れた地域で暮らす意識の広がり
- その他
 - ⇒ 子育てにやさしいまち、若い世代が定住できる仕組み、地域で見守る活動の重要性、子どもの貧困化対策

3-5. 湘南大庭地区の課題 地域の意見

(1) 湘南大庭地区郷土づくり推進会議による意見

- ・10年先を見据えた湘南大庭地区のまちづくり—検討結果の報告と提案—
高齡者支援、子ども・子育て育成支援、コミュニティ活動の活性化

(2) 市民との意見交換会等による意見、課題

- ・湘南ライフタウンの再活性化
- ・若者世代の定住促進
- ・介護人材確保のための有償ボランティア制度の構築
- ・高齡者の見守り体制の充実
- ・多世代が住める住宅
- ・空き室の増加。空き家などの情報共有。
- ・地域レベルでの住宅に関する相談体制
- ・高齡者の移動手段の確保
- ・インターネットの活用

(3) アンケート調査(2015年3月実施)

- ・地域活動への参加を促す方策。近隣とのつきあいを深める。
- ・集合住宅のバリアフリー化

4-1. 住宅ストックの活用について

湘南大庭地区の住宅の特徴

- ① 市全体に比べ、共同住宅の割合が高い。

共同住宅の割合

2005年度	湘南大庭	約62%
	全市	約51%
2010年度	湘南大庭	約60%
	全市	約51%

4-1. 住宅ストックの活用について

湘南大庭地区の住宅の特徴

- ② ニュータウン初期の住宅は建築された時期が、1970年代後半から1980年代前半が多い。

そのため、まだ20年くらいは維持されると考えられる。共同住宅は、さらに維持される建築物が多くある。(参考資料)

4-1. 住宅ストックの活用について
バリアフリー化が課題

共同住宅の3～5階建てに住む世帯の割合

平成22年度 共同住宅全体の60%

7154世帯のうちの4323世帯

平成17年度 共同住宅全体の59%

6942世帯のうちの4104世帯

4-1. 住宅ストックの活用について

終わりに

湘南ライフタウンはまだ維持される建築物が多い。しかし、20年後を見通し、今から、まちの再生を検討する必要がある。

そのための大事な要素は、地域の人たちが、信頼関係をもてるコミュニティを築くこと、人々が気軽に集える場所を設けることが、まちの再生につながると考える。

ご清聴ありがとうございました。

＜参考＞ 居場所の役割～調査からわかること

○効果……**気軽に立ち寄れること**

- a) 気軽に話し合える友人
- b) 悩みを聞いてもらえる機会
- c) 家から出かける機会が増えた
- d) いつでも立ち寄れるのがよい
- e) 居心地の良さ
- f) わが家の感覚で訪れる

○連携協力……**支えあう関係づくりが進む**

- a) それぞれの居場所には資格を持つ人が多く関わっている
- b) 相談事については、学校、市民センターなどとの連携を図る
- c) 居場所に関わる人によって、次から次へとつながる

○信頼関係……**顔の見える関係をつくる**

- a) 相談や悩み事の話ができると信頼関係が生まれてくる
- b) 顔と顔の見える関係づくりが地域コミュニティにとって大切である

＜参考＞ 居住環境の再生に向けて

つながりを育む空間・場をつくる

① 住まいを中心とした小学校区エリアを支え合いと助け合いの核とする

小学校区エリアでの支え合いの推進 地域市民の家の活用の推進

② 住まいとまちの環境再生

(仮称)藤沢市住生活基本計画の策定

住宅都市地域の再生へ向けて～地区の特性を踏まえる～

空き家の活用に向けた取組の推進

③ 民間事業者やNPO等との連携

居住支援協議会への参画

URなど住宅供給事業者との連携

④ 居住者が参画する仕組みの構築

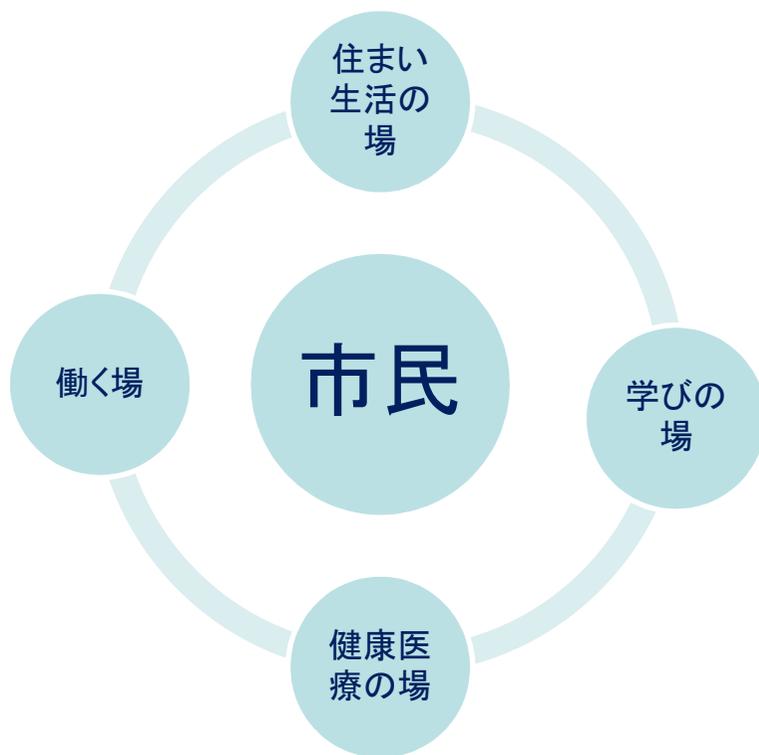
＜参考＞

＜持続可能なコミュニティのために＞

- ・顔と顔が見える関係をつくる
- ・互いに話ができるきっかけをつくりつながりをもつ
- ・自分たちで課題を解決する気持ちをもつ
- ・つながりをつくる橋渡し役(キーパーソン)がいる
- ・気軽に立ち寄れる「居場所」が大切な役割をもつ
- ・多様な機能をもつ「居場所」を確保できる環境をつくる

<参考> 少子高齢社会のまちとコミュニティの一つのすがた

人口減少社会における住みやすい都市・地域



- 目標**
人口減少社会における住みやすい都市&地域
- 市民生活のあらゆる場面で市民が主人公であるまち
自治, 参画, 交流, つながり
 - 歩いて生活ができ, 歩いて楽しいまち
都市生活機能の集約, 街並みとみどり, 身近なステーション, 多様なサービスを享受
 - 住まい・生活の場, 働く場, 学ぶ場, 健康と医療の場が整えられているまち
市民の良好な相互関係の構築(ソーシャルキャピタル)
信頼・規範・ネットワーク
マルチパートナーシップによるまちづくり

